|  |
| --- |
| 第７章　大阪の国際交易・交流 |
| 近畿圏の貿易は、地域別では、輸出入ともに国内他地域と比べて、アジアの割合が高く、北米や中南米の割合が低いこと、品目別では、輸出は輸送用機器の割合が低く、電気機器の割合が高いことが特徴としてみられます。第７章では、大阪が世界と交易、交流する現状を把握するために、貿易や外国企業数、国際会議の開催件数、在留外国人数等を取り上げます。 |

教えて！Q＆A



大阪税関「貿易統計」

|  |
| --- |
|  近畿圏の輸出入は、増えているの？減っているの？増減しているのは、何が原因なの？ |

 2023年の近畿圏の輸出額は20兆9,439億円、輸入額は18兆7,992億円で、それぞれ全国の20.8％、17.1％を占めています（7－1参照）。主な輸出品としては、半導体等電子部品や鉄鋼、建設用・鉱山用機械などがあげられます。

輸出額の推移をみると、中国への輸出増加などにより1990年代後半から増加が顕著になりました。リーマンショックが発生した2008年、翌2009年と大きく落ち込むこともありましたが、2010年以降は回復傾向にあります。足元では、米中貿易摩擦や新型コロナによる減少の後は概ね回復基調ですが、2023年はやや一服しました。

このため、輸出額の全国シェアは前年に比べ、低下しました（7－1参照）。

近畿圏の輸出額は概ね輸入額を上回っており、貿易収支は黒字基調です。

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| ７－１特徴 | 全国・近畿圏の輸出入通関額の推移 |

・ 2023年の近畿圏の輸出額は20兆9,439億円と前年比で3.2％減少しました。

* 輸入額も前年に比べ9.7％減少したため、貿易収支の黒字基調は維持しています。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－２ | 全国・主要税関の輸出入相手地域別通関額【2023年】 |

特徴

・ 近畿圏の通関額は、輸出額で全国の21％、輸入額で17％を占めています。

* 輸出入ともアジアが高い割合を占める一方、他税関と比べ輸出で北米、中南米の割合が低いのが特徴としてみられます。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－３ | 全国・近畿圏の輸出入品目別通関額【2023年】 |

特徴

・ 近畿圏の輸出は、全国と比べて「輸送用機器」の割合が低く、「電気機器」の割合が高いのが特徴としてみられます。

* 近畿圏の輸入は、全国と比べて「化学製品」の割合が高く、「鉱物性燃料」の割合が低いのが特徴としてみられます。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－４ | 近畿圏の輸出入主要相手地域別品目別通関額【2023年】 |

特徴

・ 近畿圏の輸出は、アジア向けでは「電気機器」、アメリカ向けでは「一般機械」が多いことが、他地域と比べて特徴的にみられます。

・近畿圏の輸入は、欧米からは「化学製品」、アジアでは「電気機器」「その他」の多いことが特徴的にみられます。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－５大阪の国際化 | 全国・主要都府県の外国資本比率別企業数【2021年】 |

特徴

* 大阪府内の立地企業で外国資本が入っている企業は、2021年の調査で回答のあった企業の1.0％にとどまっており、全国の割合とほぼ同じ割合です。
* 外国資本比率が33.4％以上の大阪府内企業は、年々増加しており、中でも資本金1,000万円未満の2021年の企業数は2012年と比べ3.8倍と増加が顕著です。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－６ | 国内主要空港別国際線航空貨物取扱量の推移 |

特徴

* 国内空港で取り扱われた貨物量は、2021年をピークに減少しています。この間に27.8％減少した成田国際空港の影響を受けています。
* 関西国際空港は10.7％の減少にとどまり、全国取扱量シェアも、ほぼ維持しました。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－７大阪の国際化 | 全国・主要都道府県の国際会議開催件数の推移 |

特徴

* 新型コロナ感染症によって停滞していた社会経済活動が、2022年になって徐々に動き始め、大阪府内で21の国際会議が開催されました。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－８ | 全国・主要都府県の在留資格別在留外国人数【2023年】 |

特徴

* 大阪府内には全国の8.8％、301,490人（2023年12月末）の在留外国人がいます。
* 大阪府内で全国シェアが比較的高い10％以上の在留資格は、「特別永住者」「介護」「研修」「経営・管理」「医療」「留学」となっています。

